

バンダ・アチェ市津波博物館において津波防災教育を行いました(2016/11/24)

テーマ：津波、復興、防災教育

場所：インドネシア、バンダ・アチェ、アチェ津波博物館、仙台市、東京エレクトロンホール仙台、石巻市、石巻グランドホテル

2016年11月24日、バンダ・アチェ市津波博物館において、当研究所の桜井愛子准教授、柴山明寛准教授（いずれも情報管理・社会連携部門）、宮城教育大学の小田隆史特任准教授らがバンダ・アチェ市内の3つの高校生、70名を対象に津波防災教育を行いました。

バンダ・アチェ市の高校生への授業開始に先立ち、アチェ津波博物館と仙台市、石巻市とをインターネットテレビ会議で接続しました。当日は日本時間の午前10時半のタイミングで、仙台市では災害科学国際研究所防災教育国際協働センターと宮城県教育委員会が「防災教育を中心とした学校安全フォーラム」を開催、石巻市では「世界津波の日」高校生サミット宮城スタジアムのワークショップが開催されていました。仙台市のフォーラム会場に集まった700名以上の学校教員を中心とした参加者と、世界16カ国から150名が参加した石巻の会場の高校生に対して、アチェ津波博物館から2004年インド洋大津波を経験したバンダ・アチェ市の2名の高校生（リサさん、ユルナイリスさん）が、津波避難と2004年大津波の経験の伝承の重要性を訴えました。

インターネットテレビ会議終了後、桜井愛子准教授と小田隆史特任准教授から「津波ポール位置情報を活用した津波防災教育」、柴山明寛准教授からは「東日本大震災デジタル・アーカイブの紹介」が行われました。共に参加した井内加奈子准教授、マリ・エリザベス助教（人間・社会対応研究部門）、地引泰人助教、杉安和也助教（リーディング大学院）も交えて活発な意見交換が図られ、1時間半の授業になりました。

災害科学国際研究所では、11月22日、アチェ津波博物館と連携協定を締結しており、今後、こうした東北とアチェとの交流を含む教育活動や共同研究をさらに推進していく予定です。



参加した高校生との集合写真



アチェからの津波メッセージを伝えた
リサさん、ユルナイリスさん



地図を活用した津波防災授業の様子